

シンポジウム

「進展する震災映像アーカイブの研究利用とその課題」

目的

東日本大震災、原発事故から3年半以上が経過し、震災報道をめぐるジャーナリズム研究の対象は、当初の災害報道、緊急報道のあり方に関するものから、膨大に蓄積されつつある映像、テキスト、データ等を利用した、より射程の広い立体的なものになりつつある。しかし、長期間に渡って蓄積された映像アーカイブを利用した時系列的かつ体系的な研究は、従来のジャーナリズム研究においては前例が少なく、分析フレームから、方法論、そしてメタデータの設計・活用、放送番組著作権の処理、等にいたる各レベルにおいて課題も少なくない。そうした中、様々な試行錯誤が続けられているのが現状といえる。

本シンポジウムでは、比較的早い段階から着手され、すでに成果の出始めている研究の事例報告を踏まえて議論を行い、今後本格的な研究を展開していくうえでの方向性や課題等を共有する場としたい。

日時：11月29日（土）16時～（18時半）

場所：日本大学法学部10号館1031講堂

〒101-8375 東京都千代田区三崎町2-3-1

<http://www.law.nihon-u.ac.jp/access.html>

プログラム（案）：

1. 挨拶、趣旨説明

2. 報告（50分）
 - ①原由美子（NHK放送文化研究所）
「テレビドキュメンタリーは震災をどう伝えてきたか」
 - ②西田善行（法政大学大原社会問題研究所）
「原発事故報道の3年～言語計量分析から見えてくること」

3. コメント（30分）
コメンテーター①：大井眞二（日大法学部新聞学科）
コメンテーター②：早乙女宣宏（日本大学大学院法務研究科）

4. ディスカッション（50分）
司会：岩淵美克（日本大学法学部新聞学科）

主催：日本大学法学部新聞学研究所

参加について：参加は無料、事前申し込み不要です。当日、会場に直接お越しください。

問い合わせ先：米倉律（シンポジウム実施担当）

電話 03-5275-8656 E-mail yonekura.ritsu@law.nihon-u.ac.jp